



News Letter



— No.1 —

Japan Academy of Life Sciences
LS 日本生命科学アカデミー

News Letter 創刊に当たって

日本生命科学アカデミー会長の長野です。News Letter の創刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年4月、第5代会長金澤一郎先生、第6代会長金岡祐一先生の後を継いで第7代会長に就任致しました。昨年度は、新たにホームページの開設、ロゴマークの制定、会員および賛助会員の増強を精力的に進めて参りました。皆様方のお陰で新たに多くの会員および賛助会員にご入会頂き、基本的な体制は整備され、その結果、昨年度は日本学会が主催する10シンポジウム等（夏季部会を含む）に助成金を交付することが可能になりました。改めて厚く御礼申し上げます。今年度は会員・賛助会員との相互交流の活発化、本アカデミー機関誌 News Letter の発刊および本アカデミー主催の市民公開講演会の開催を計画しております。

そして、今年4月の理事会・総会で日本学会第二部との連携を明確にする観点から、「日本医歯薬アカデミー」を「日本生命科学アカデミー」に改称しました。

基本的な体制が整備されたとは申しましても、まだその基盤は脆弱です。今年度は活動を更に強化していく所存ですので、会員・連携会員の皆様には倍旧のご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



提言「第 23 期学術の大型研究計画に関する マスタープラン（マスタープラン 2017）」

第 23 期日本学術会議、科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会から平成 29 年（2017 年）2 月 8 日に「第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2017）」（<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t241-1-0.pdf>）が提言として発出された。最初のマスタープランは、平成 22 年（2010 年）に第 21 期の検討分科会により「学術の大型施設計画・大規模研究計画（マスタープラン 2010）」が策定され、翌年に「マスタープラン 2011」として小改定された。第 22 期では、策定方針の見直しを行い、学術研究領域の制定、公募の採用、日本学術会議分野別委員会と連携強化を行い、「マスタープラン 2014」として発出された。

第 23 期では、これらのマスタープランのいずれも我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効に活用されていると考え、策定方針に関する科学者コミュニティからの意見等を踏まえ、マスタープラン 2014 の改定を行ったものである。公募対象は、二グループに分け、区分 I（新規応募計画及びマスタープラン 2014 区分 I 掲載の計画）と、区分 II（マスタープラン 2014 に掲載され、かつ現在実施中・進行中の計画）とした。区分 I には 166 件の応募、区分 II には、16 件の応募があり、区分 I のうち 163 件が学術大型研究計画として選定され、区分 II については、全提案を学術大型研究計画として選定された。さらに、検討分科会では、計画の成熟度、国家としての戦略性、緊急性、予算化のための計画の準備状況を加えた諸観点から、特に速やかに推進すべき計画として、区分 I から 28 件の学術大型研究計画を選定し、重点大型研究計画とした。

これまでのマスタープラン同様、科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン 2017 が、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効に活かされることが期待されている。



軍事的安全保障研究に関する声明

2015年に始まった防衛装備庁の競争的資金制度「安全保障技術研究推進制度」に端を発して、アカデミアにおける安全保障における学術のあり方を検討する「安全保障と学術に関する検討委員会」（以下、検討委員会）が発足し、平成29年（2017年）3月24日に「軍事的安全保障研究に関する声明」が発表された。

防衛装備庁では、「我が国の高い技術力は、防衛力の基盤であり、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、安全保障に関わる技術の優位性を維持・向上していくことは、将来にわたって、国民の命と平和な暮らしを守るために不可欠で、とりわけ、近年の技術革新の急速な進展は、防衛技術と民生技術のボーダレス化をもたらしており、防衛技術にも応用可能な先進的な民生技術、いわゆるデュアル・ユース技術を積極的に活用することが重要となっている¹⁾」と考え、そのために「防衛分野での将来における研究開発に資することを期待し、先進的な民生技術についての基礎研究を公募¹⁾する制度として「安全保障技術研究推進制度」を設けた。

それに対して、検討委員会では「将来の装備開発につなげるという明確な目的に沿って公募・審査が行われ、外部の専門家でなく同庁内部の職員が研究中の進捗管理を行うなど、政府による研究への介入が著しく、問題が多い。学術の健全な発展という見地から、むしろ必要なのは、科学者の研究の自主性・自律性、研究成果の公開性が尊重される民生分野の研究資金の一層の充実である²⁾」との見解を表明し、「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」旨の声明（1950年）と「軍事目的のための科学研究を行わない声明」（1967年）の過去の2つの日本学術会議からの声明を継承するとした。そして、「大学等の各研究機関は、施設・情報・知的財産等の管理責任を有し、国内外に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うことから、軍事的安全保障研究と見なされる可能性のある研究について、その適切性を目的、方法、応用の妥当性の観点から技術的・倫理的に審査する制度を設けるべきで、学協会等において、それぞれの学術分野の性格に応じて、ガイドライン等を設定することも求められる²⁾」との声明を発出した。

1) 防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」より抜粋

2) 日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」より抜粋

公開シンポジウムのお知らせ

「睡眠と生物時計：心身の健康を守るからだのリズム」

日本学術会議 公開シンポジウム

睡眠と生物時計

心身の健康を守るからだのリズム

日時：2017年5月28日（日曜）13:30～17:00
場所：日本学術会議 講堂（東京メトロ千代田線乃木坂5番出口徒歩1分）

司会 本間さと 北海道大学脳科学研究教育センター客員教授

13:30 **開会の挨拶**
近藤孝男 名古屋大学院理学研究科特任教授

13:40 **生物時計のリズム発振と睡眠**
上田泰己 東京大学大学院医学系研究科教授

14:20 **リズム・睡眠・気分**
内匠 透 理化学研究所脳科学総合研究センターシニアチームリーダー

15:00 休憩

15:15 **ヒトの睡眠覚醒リズムをつくる脳の時計・体の時計**
本間研一 北海道大学大学院医学研究院客員教授

15:55 **眠りと目覚めを整える一身体、脳、こころの接点**
尾崎紀夫 名古屋大学大学院医学研究科教授

16:35 **総合討論**

16:50 **閉会の挨拶**
沼田英治 京都大学大学院理学研究科教授

主催：日本学術会議生物リズム分科会
共催：日本時間生物学会、日本睡眠学会、日本うつ病学会
後援：日本医歯薬アカデミー
連絡先：内匠（たくみ）透 tel: 048-467-5906
e-mail: toru.takumi@riken.jp

参加費無料
事前申込み
不要

日 時 平成29年5月28日（日） 13:30～17:00

場 所 日本学術会議講堂

詳細はこちらからご確認ください

<http://www.sci.go.jp/ja/event/pdf2/239-s-2-3.pdf>

公開学術講演会のお知らせ

「アフリカ研究50年—日本の国際貢献」

平成29年
8月5日(土)
13:30~16:30

長崎大学医学部
良順会館ボードインホール
(長崎市坂本1-12-4)

公開学術講演会
アフリカ研究50年
—日本の国際貢献—

プログラム (司会) 山下 俊一 (日本学術会議第二部会員
長崎大学理事・副学長)

- 13:30 開会
挨拶 大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員
豊橋科学技術大学学長、東京大学名誉教授)
片峰 茂 (長崎大学学長)
- 13:40 特別
講演 「ゴリラと歩いたアフリカ」
山極 壽一 (日本学術会議第二部会員
京都大学総長)
- 14:20 講演 「アフリカでの感染症研究：
長崎大学の50年と日本の方向性」
金子 聡 (長崎大学熱帯医学研究所教授)
- 14:50 休憩 (10分)
- 15:00 講演 「漢方を用いた熱帯病治療薬の開発研究」
平山 謙二 (長崎大学熱帯医学研究所長)
- 15:30 講演 「ねむり病は眠らない」
北 潔 (長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科長)
- 16:00 講演 「エボラ出血熱、ラッサ熱の流行発生地を経て
シュバイツァー博士ゆかりの地へ」
安田 二郎 (長崎大学熱帯医学研究所教授)
- 16:30 閉会
挨拶 長野 哲雄 (日本学術会議第二部部長
東京大学名誉教授、産業機構客員教授)

入場無料 どなたでも
参加できます

日本の大学による最も特徴ある国際貢献として、京都大学の豊長類生態研究と長崎大学の熱帯病対策研究があげられます。長崎大学を中心としたアフリカにおける海外医療協力と学術共同研究を紹介するため、50年にわたり現地で研究活動を行っている京都大学の総長である山極壽一先生を筆頭に、長崎大学の得意分野を生かした感染症を専門とする熱帯医学研究所及び熱帯医学・グローバルヘルス研究科の第一線の研究者による公開学術講演会を開催いたします。

主催 日本学術会議第二部
共催 長崎大学
後援 日本生命科学アカデミー、
公益財団法人日本学術協力財団

連絡先 長崎大学国際連携研究戦略本部
☎ 095-819-7008
✉ cicojimu@ml.nagasaki-u.ac.jp

日時 平成29年8月5日(土) 13:30~16:30
場所 長崎大学医学部良順会館ボードインホール
主催 日本学術会議第二部
共催 長崎大学
後援 日本生命科学アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団

生命科学シンポジウム助成金交付一覧 (H28 年度)

開催日	開催地	テーマ	主催者代表 (申請者)
28. 7.26	日本学術会議 講堂	生命科学研究の総合的推進： 日本医療研究開発機構(AMED)に期待する	第二部 生命科学における 公的資金のあり方検討分科会 委員長 本間 さと
8.26	札幌コンベンション センター	歯学研究における基礎と臨床のシグナル伝達	歯学委員会基礎系歯学分科会 委員長 山口 朗
9. 1	日本学術会議 講堂	自己を知る脳・他者を理解する脳 ～融合的アプローチによる社会脳研究の魅力	心理学・教育学委員会「脳と意識」分科会 委員長 苧阪 直行
9.19	帝京大学 板橋キャンパス	脱タバコ社会実現をめざしタバコ対策の再構 築を	健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会委員 秋葉 澄伯
11.25	日本薬学会館 長井記念ホール	第26回 光学活性化合物シンポジウム	薬学委員会 委員 柴崎 正勝
29. 1.13	日本学術会議 講堂	ITと創薬の融合～ビッグデータとスーパーコ ンピューティングで生命現象を解く～	薬学委員会生物系薬学分科会 副委員長 土井 健史
1.22	日本学術会議 講堂	健康社会に向けた多次元脳・ 生体イメージングの総合的推進	基礎医学委員会機能医科学分科会 委員長 本間 さと
2.21	日本学術会議 講堂	提言－生きる力のさらなる充実を目指した 家庭科教育への提案－作成に向けて	健康・生活科学委員会家政学分科会 委員長 小川 宣子
3.11	慶應義塾大学 三田キャンパス	これからのいのちと健康と生活をまもる 1. 災害時に生き抜くための力を養う	健康・生活科学委員会 副委員長 小川 宣子

第二部 夏季部会助成金交付 (1 件)

開催日	開催地	テーマ	主催者代表 (申請者)
28. 8.19	東京大学医学部 鉄門記念講堂	ゲノム編集技術の現状と将来展望	日本学術会議第二部夏季部会 岡部 繁男

日本生命科学アカデミーの新ロゴと新 URL

<新ロゴマーク>



<日本生命科学アカデミーの URL> <http://ja-ls.jp>

賛助会員（企業会員）ご紹介のお願い

本アカデミーの活動の基盤が賛助会員からの支援に依る事から今年度も引き続き増強運動を行っております。会員ならびに賛助会員の皆様におかれましては新規賛助会員のご紹介をお願い申し上げます。必要事項をご記入の上、メール（info@ja-ls.jp）または FAX（03-5410-1822）、郵送で事務局までお送りください。

ご紹介いただける企業・団体	企業名・団体名	
	ご担当者様	
	ご所属・職名	
	E-mail	
ご紹介者様	ご芳名	
	ご所属	
	企業・団体へ連絡する際に、ご紹介者様のお名前をお伝えすることのご承諾	諾 ・ 否 （どちらかに○印をつけてください）



NEWS LETTER
No. 1

発行/日本生命科学アカデミー

〒106-0031 東京都港区西麻布 3-24-20

公益財団法人 日本学術協力財団内

日本生命科学アカデミー事務局

URL : [http:// ja-ls.jp](http://ja-ls.jp) , E-mail : info@ja-ls.jp

発行日/2017年5月22日